

福博電車株式會社労働争議 第三報（再後）

去る九月十四日發生せる福博電車争議は既報の如く一應の解決を見たのであるが解決事項の實施を待つて再び双方の態度尖鋭化し遂に主眼者三十一名が解雇されるに至り再度罷業の危機に直面したのであるが従業員間に生じたる反組合團體との對立により争議の益増進の妨ぐならず待つて争議引込運動も漸時深刻化しつつあつたが十月二十二日未明争議間八十一名（全部）が電車二線を車庫より引出し夫々分乘して始業電車の運轉を阻害するの行動に出でたる爲遂に役員總幹事を受けるに至つた。

記

一、争議解決以後の折衝状況

九月下旬より十月二日にかけての防空演習終るや従業員側は

解決事項の即時實行を要求し居りたる處十月八日午後四時半従業員代表として組合加入の福岡秀雄外二十四名が會社を訪問し内田常務取締役の面會を求め拒絶せられるや一般従業員はビラを撒布して氣勢を揚げ漸く午後八時委員長三名が會社前小林秘書と面會したる結果九日午前十時正式會見をなす事に決定したるを以て翌日再び前記代表が本社に於て宮田總務課長、高田營業課長、小林秘書と會見し解決事項の即時實行、班別（車庫別）に茶話會開催組合切崩反対を要求したり會社側は既に解決事項の實施には着手してゐる、班別茶話會は會社の認めたる班長の甲田が無い以上許す事は出来ぬ。會社としては別に切崩賛成は取つてゐないと回答した、然るに従業員代表は執拗に要求を起り及方意見を固持して遂に午後一時半會見を打切つたのである。